

第 2 期長期モニタリング計画に係るこれまでの議論

第 2 期長期モニタリング計画に係るこれまでの議論の経緯について、概要を以下に示す。

<会議の開催経緯>

第 1 回 WG：2021（令和 3）年度 第 1 回適正利用・エコツーリズムWG（10/22 開催）

第 2 回 WG：2021（令和 3）年度 第 2 回適正利用・エコツーリズムWG（2/8 開催）

Web 会議：2021（令和 3）年度 第 2 回適正利用・エコツーリズムWG後の Web 会議（3/1 開催）

科学委員会：2021（令和 3）年度 第 2 回科学委員会（3/7 開催）

1. 複数の WG が評価主体のモニタリング項目に関して

	議論の概要
第 2 回 WG	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境のベーシックなモニタリングは他の WG、利用に関する側面は本 WG という合同での評価検討を行う。 ・具体的には次の案が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> 案①：関連するWGと合同で会議を行い、評価 案②：関連する双方のWGに所属する委員が評価 案③：科学委員会で評価 →【結論】案①として科学委員会に諮る。
科学委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・案①が妥当だが、当面は試行と捉え柔軟に対応していく。 →先に課題等に気づいた WG 側が、対応する WG に相談すれば良い。 →【結論】案①をベースに柔軟に対応。WG 間のやりとりは科学委員会で報告。

2. 評価項目 F に関して

2-1 人の利用に関する圧力について

	議論の概要
科学委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・人による利用であるならば、観光だけでなく漁業なども含むのではないか。 →産業的な利用を入れると、社会的利用（道路の建設など）も入ってくる。 →遺産価値に観光が与える影響と、農林業などの産業が与える影響は意味が異なる。 →現時点で評価項目 F に紐付いてるモニタリングは観光利用に類するものばかり。産業的なものを含めるなら評価を別立てにすべき。 →【結論】評価項目 F の「人の利用」に産業的な視点は含めない。（産業的な視点は評価項目 A や E で進めていく）

2-2 モニタリング No. 14「ヒグマによる人為的活動への被害状況」について

	議論の概要
第 1 回 WG →第 2 回 WG	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒグマによる人為的活動への被害状況」だと意味が広い。レクリエーション利用に関連する事項だけ分離すれば、本 WG で評価可能。 →レクリエーション利用によってヒグマの行動変化が起きた、そのこと自体が環境影響なのか、それとも行動変化を起こしたヒグマが駆除され個体数が減少することが環境への影響なのか、区別が必要。 →ヒグマの数ではなく、利用面から評価すべき。 →【結論】人との軋轢や観光資源としての活用状況の面から評価。ヒグマに対して安全なエコツアーの実施という観点について、本 WG で評価。

2-3 モニタリング No.19「適正な利用・エコツーリズムの推進」について

	議論の概要
第2回 WG	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標のうち、前半の「知床エコツーリズム戦略の基本方針に沿った事業の実施状況」の評価はGで行い、後半の「客層の変化、自然環境への懸念」の評価はFで行えば良い。よって、本評価指標はF・Gの双方に入れるべき（それぞれ文章を分ける必要はない）。 ・「利用者の増減」はNo.20「利用者数の変化」に含む扱いで良い。 ・利用の形態については時代とともに変わるため、資源利用形態の変化も指標に入れておくべき。 ・利用による直接的な影響だけでなく間接的な影響や複合的な影響も見ていくことが重要。 ・資源利用形態の変化、客層の変化、自然環境への懸念は、地域住民や観光客へのアンケート結果で評価可能。 <p>→【結論】「資源利用形態の変化」を追加した上で、F・Gの双方に入れる。「利用者の増減」はNo.20に含む扱いとする。</p>

2-4 モニタリング No.21「登山者による高山植生への影響調査」について

	議論の概要
第2回 WG	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上生態系の変化と利用者の利用状況の双方を把握するために実施しているもの。しかし、精密なデータ取得はされておらず、植生と利用の関係を厳密に評価することは困難。モニタリングしていくことは可能。 <p>→【結論】海鳥などと同様、自然環境のベーシックなモニタリングはエゾシカWGが担当し、本WGは利用に関する側面から評価。エゾシカWGとデータ共有しつつ、変化が見られれば都度対応すればよい。</p>

3. 評価項目Gに関して

（評価項目Gに、「人の利用と自然環境保全との両立」と「管理努力」の2つの観点が入っていたため、区分した評価項目とすべきかが論点となった）

	議論の概要
第2回 WG →Web 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・「管理努力」は評価が可能だが、「自然環境保全との両立」の評価は本WGだけでは困難。 →そもそも「管理努力が行われているか」ということと「両立しているか」という性質の違う観点を一緒に評価をすることはできない。 <p>→【結論】2つの観点は区分し、「管理努力」を評価項目Gとする。「自然環境保全との両立」は、既に評価項目Fに位置づけられていると捉える。</p>